

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 20 日現在

機関番号：23901

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520681

研究課題名（和文） 日本古代社会における書儀の受容と展開—「往来物」「書札礼」の成立に向けて—

研究課題名（英文） On the acceptance and deployment of letter-writing manuals in the ancient Japanese society

研究代表者

丸山 裕美子 (MARUYAMA YUMIKO)

愛知県立大学・日本文化学部・教授

研究者番号：00315863

研究成果の概要（和文）：日本古代社会における文字文化の受容と展開について、具体的な様相を明らかにし、中世以降に盛行する往来物や書札礼の成立についての見通しを立てた。敦煌文献や法帖として残る書儀や月儀の分析を通して、唐代の双鉤填墨技法による書法が将来されたことによって、日本古代の書儀が成立したことを示した。書儀は書状の模範例文であると同時に書の手本であり、中世以降の往来物が初学者の教科書であるのも、その本来のあり方を継承したものであるといえる。

研究成果の概要（英文）：I clarified the concrete aspect about acceptance and deployment of character culture in ancient Japanese society, and stood the prospect about formation of *oraimono* 往来物 and *shosatsurei* 書札礼. By having carried out the manner of writing by the *soko tenboku* 双鉤填墨 (placing a thin pieces of paper over the original and lightly tracing the lines) technique of the Tang cost in the future showed that *shogi* 書儀 (letter-writing manuals) of the ancient Japan was materialized through analysis of *shogi* which remains as the Dunhuang documents. While *shogi* is a model example of a letter, it is a model of writing, and it can also be said that *oraimono* on and after medieval times is a beginner's textbook to inherit the original way that should be.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
2012年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：古代史、書儀、敦煌文献、往来物、書札礼

1. 研究開始当初の背景

(1) 申請者はかつて、100点以上ある中国・敦煌・トルファン出土書儀の分類整理を行い、日本の正倉院文書における書状を分析して、中国の書儀が、日本の古代社会にどのように

受容されてきたのかを明らかにした。

(2) 中世以降に盛行する「往来物」については、近世の教育史や国語学の分野での研究が蓄積されているが、この往来物成立に関し

て、中国の書儀、とくに「朋友書儀」あるいは「月儀」の影響について、具体的に考察した研究はなかった。また敦煌文献で「吉凶書儀」とよばれるものは、日本中世の「書札礼」につながるものと考えられるが、これについてもほとんど考察の対象とされることはなかった。

(3) 一方、中国や台湾においては、敦煌文献の書儀についての整理が進み、多くが校訂翻刻され、インターネットでその鮮明な画像が公開されている (IDP International Dunhuang Project)。初学書としての書儀研究の進展も見られるようになった。

(4) 古代日本における文字文化の展開を考えるにあたっては、中国の書儀と日本の往来物—とくに古往来—との関係について、具体的に考察を加える必要がある。

2. 研究の目的

(1) 「月儀」とよばれる六朝から唐・宋代の法書・法帖について、史料を集成し、その性格と普及のあり方を明らかにする。

(2) 「月儀」と「朋友書儀」との関係を確認する。『隋書』で「月儀」は小学、書儀は儀注に分類されることの意味を考え、その上で「朋友書儀」という名称が妥当なのかどうかについて検討する。

(3) 「月儀」の性格は、古代日本における王羲之の書法の流行や、正倉院に献納された『杜家立成雑書要略』にも通じる。これは「月儀」から発展したと考えられる「十二月往来」が、初学書として普及したこととも関連する。その視点から、貴族社会あるいは寺院社会における往来物の発生を明らかにする。

(4) 「吉凶書儀」と「書札礼」との関係について考察を加える。中国社会の「礼」をかたちとしてしか受容しなかった日本の社会が、自らの社会規範を形成し、書札礼を生み出した過程を解明する。

(5) 以上を踏まえ、中国「書儀」文化—文字と文章と社会規範、習俗を含む—が、どのように日本の古代社会に受容されたのかを明らかにし、「往来物」と「書札礼」の成立について具体的な様相を描くことを目指す。

3. 研究の方法

(1) 中国の書儀、とくに敦煌文献の「朋友書儀」や法書・法帖として残る「月儀」についての調査研究を行う。

(2) ロシア科学アカデミー—東洋写本研究所所蔵の「索靖月儀帖」について原本調査を行う。また台湾・故宮博物院の「唐人月儀帖」についても再調査する。

(3) 往来物については、教育史や国語学の分野で多くのすぐれた成果があるので、それらについての研究文献の収集と整理を行う。

(4) 中国及び台湾の書儀研究者と意見交換を行い、最新の情報や知見を得て、それを自らの研究の深化に生かす。

(5) 往来物・書札礼についての原本調査と分類整理を行う。

4. 研究成果

(1) 書儀の一つであり、「往来物」の起源となったと考えられる「月儀」についての研究を深めた。ロシア・サンクトペテルブルグで開催された研究集会に参加して「索靖月儀帖」についての研究成果を報告し (学会発表③、英語)、あわせてロシア科学アカデミー—東洋写本研究所 (IOM) において、当該資料の原本を熟覧調査した。また IOM から精度の高いデジタル画像を入手することができた。その画像処理によって、本資料が双鉤填墨の技法で作られた精巧な法書であることがわかったので、これを論文として発表した (論文②)。あわせて「索靖月儀帖」に関する前稿の誤りを訂正した (図書③)。中国の研究者による批判を受けたことに答えたもので、IOM 所蔵の「索靖月儀帖」断簡は計 5 点であることが判明した。

(2) 「索靖月儀帖」は、最も早い時期に成立した月儀である。IOM 所蔵のものは、断簡とはいえ、法帖 (拓本) ではなく、墨跡である。熟覧調査とデジタル写真の画像処理によって、双鉤填墨の技法によって作成された精巧な法書であること、8 世紀のものであること、敦煌文献で間違いないことが確認された。このことは、こうした月儀が、8 世紀の唐において、双鉤填墨の技法で作成され、普及していたことを示す。8 世紀の日本において、東大寺に献納された正倉院宝物のなかにみられる「王羲之書法廿卷」や「大小王真跡帖」もまた「索靖月儀帖」と同様、8 世紀の唐で作成されたものであったと考えられる。書儀の一つである光明皇太后が臨摸した『杜家立成雑書要略』もまた、原本はこうした双鉤填墨の技法で作成されたものであった可能性が高い。『杜家立成雑書要略』は東北多賀城周辺でも墨書した木簡が出土しており、書状の模範例文であると同時に、書の手本として

古代日本の社会に一定程度普及していたと考えられる。

(3) つまり、往来物につながる月儀は、書状の模範例文としてだけではなく、書の手本として、唐からもたらされたものであった。日本中世・近世における往来物が、初学者の教科書であるのも、その本来のあり方を継承しているのだと言ってよいであろう。

(4) また書儀の受容は、日本の古代国家における文字文化の形成に大きく寄与した。律令制国家においては、文書行政が徹底されたが、その文書作成能力の向上には、中国からもたらされた書儀の果たした役割が大きかった。古代日本の「文明化」に書儀は必須の存在であったのである(論文④、図書②)。

(4) なお2011年9月～2012年3月にかけて、中国・北京市の中国社会科学院歴史研究所に訪問学者として滞在し、同所所属の書儀研究の第一人者である呉麗娛氏と交流を深め、最新の書儀研究動向を知った。同じく書儀研究に先鞭をつけられた北京理工大学の趙和平教授とも、北京大学の研究会で、直接意見交換を行うことができた(論文③)。また中国における敦煌文献の書儀について、資料の閲覧・確認および参考文献の収集を行った。中国社会科学院において、これまでの書儀に関する研究成果(正倉院文書の中にみえる書儀文化)を、概説的にではあれ、発表できたことも収穫であった(学会発表②)。他にこの研究を通して、台湾や韓国、ロシアの研究者とも交流をもてたことは有意義だった。

書札礼に関する研究は、計画通りには進まなかった。今後の課題としたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

① 丸山裕美子「万葉律令考補」『美夫君志』、87号、査読有、2013年(掲載予定)

② 丸山裕美子「ロシア科学アカデミー東洋写本研究所蔵「索靖月儀帖」断簡についての基礎的考察」『愛知県立大学文字文化財研究所年報』、6号、査読無、2013年、PP. 1-16

③ 丸山裕美子「2011年北京二つの研究会報告—天聖令・古文書・大唐西市墓誌—」『東方学』、125号、査読無、2013年、pp. 150-157

④ 丸山裕美子 (英文) “The Adoption of the

Risturyo Code and their Civilizing Influence”, ACTA ASIATICA、99号、査読無、2010年、pp. 39-58

⑤ 丸山裕美子 (中文)「唐日医疾令的復原與対比—対天聖令出現之再思考」『法制史研究』(台湾・台北)、16号、査読有、2010年、pp. 57-90

[学会発表] (計4件)

① 丸山裕美子「万葉律令考補—北宋天聖令の発見を経て—」、美夫君会大会(招待講演)、2012年6月30日、中京大学

② 丸山裕美子「正倉院文書概論」、古文書研究会(招待講演)、2011年12月27日、中国社会科学院歴史研究所(中国・北京市)

③ Yumiko Maruyama “On the manuscript known as *Yue-I* 月儀 written by *Suo-Jing* 索靖 of the IOM Collection”, Second Meeting of the Roundtable “Talking about Dunhuang on the Riverside of the Neva”, 2010年9月3日、ロシア科学アカデミー東洋写本研究所(Institute of Oriental Manuscript、ロシア・サンクトペテルブルグ市)

④ Yumiko Maruyama “The Genealogy of Medical Doctors in Ancient Japan”, Medical Doctors in History of East Asia (招待講演)、2010年8月27日、延世大学 Yonsei University (韓国・ソウル市)

[図書] (計3件)

① 土肥義和編『敦煌・吐魯番出土漢文文書の研究 修訂版』、汲古書院、2013年、505pp.

② 大津透編『律令制研究入門』、名著刊行会、2011年、308pp.

③ 丸山裕美子『正倉院文書の世界』、中央公論新社(中公新書)、305pp.

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

丸山 裕美子 (MARUYAMA YUMIKO)
愛知県立大学・日本文化学部・教授
研究者番号：00315863